

情報通信審議会 情報通信技術分科会
電波利用環境委員会 CISPR B 作業班(第 22 回)

議事要旨(案)

- 1 開催日時：令和 5 年 1 月 18 日（水）10:00～12:00
- 2 開催場所：Web 会議開催(Cisco Webex)
- 3 出席者（敬称略）

【構成員】久保田主任(TELEC)、塚原主任代理(JQA)、中村主任代理(鉄道総研)、井上(博)構成員(JEMA)、井上(正)構成員(トーキン)、三澤構成員(JR 東日本)、尾崎構成員(富士電機)、笠井構成員(超音波工業会)、加藤構成員(REEA)、木下構成員(JEITA)、久保構成員(NHK)、栗原構成員(牧野フライズ)、田島構成員(NTT-AT)、竹内構成員(鉄道総研)、徳田構成員(富士電機)、永野構成員(ARIB)、中村構成員(日本ロボット工業会(安川電気))、平野構成員(JFMDA)、真嶋構成員(JEMA)、三塚構成員(TELEC)、峯松構成員(KEC)、安江構成員(電気事業連合会)、山中構成員(NICT)、山本構成員(JET)

【関係者】大平関係者(日本ロボット工業会)

【事務局】総務省：島田電波利用環境専門官、伊藤電波監視官、下谷電磁障害係長、木村官

4 議事要旨

(1) CISPR サンフランシスコ会議 審議結果について

B 小委員会総会の審議結果について、久保田主任より資料 21-1-1 に基づき説明が行われた。

次に WG1 の審議結果について、久保田主任より資料 22-1-2 に基づき説明が行われ、以下の質疑応答があった。

田島構成員：総会でカナダのエキスパートから提出された INF 文書において、空間伝送型 WPT の測定法が定まっていない旨の意見があったかと思う。一方、該当のエキスパートは B 小委員会の WG1 の会合にも参加しており、その中では測定法が検討されているはず。前述の文書で指摘されていたのは、否決された FDIS の中に測定法がないという旨の意見だったのか。

久保田主任：そうだと思う。CISPR 11 の Fragment 1 に対して、他の国から測定法と許容値はセットでないとおかしいとの意見があったが、Fragment 3 において、カナダは同様の意見を述べたのだと思う。加えて、該当のエキスパートが WG1 の会合に参加していた事については、WG レベルでは測定法についての議論はなく、まだ TF のみで行われている。なお、TF で議論されているものについては、必要な許容値を盛り込んだものを INF 文書として作成し、その後、今 Fragment 3 となっているものと合体する予定。

田島構成員 : 了解した。

WG7 の審議結果について、田島構成員より資料 22-1-3 に基づき説明が行われた。

(2) 電波利用環境委員会 報告書(案)について

久保田主任より資料 22-2-1、22-2-2 に基づき説明が行われた後、以下の質疑応答があった。

山中構成員 : WG7 で議論されている CISPR 37 の 2nd CD の発行について、B 小委員会の総会資料では 2023 年 5 月とされているが、WG7 の報告ではもう少し伸びる可能性があるとの話があった。

久保田主任 : 資料 22-2-1 の「2nd CD 案の各国回付を 2023 年 5 月までに実施する予定。」との記載について、WG の議事録を確認し適宜修正したい。

(3) その他

特段の意見なし。

以上